

一人ひとりが平和をつくる

—旅から学ぶ沖繩—

塚田 勲(滝山)

暮れに沖繩に行きました。手に取った「琉球新報」は、沖繩十大ニュースを報じていました。

第一位はやはり

「日米両政府がオスプレイ県内配備を強行。県民の反発が強まり、超党派で十万人規模の県民大会。政府は普天間飛行場の県内移設を堅持」一ページの三分の一は、「民意無視に県民一丸の見出しで大集会と街中を飛ぶオスプレイの写真、丁寧な解説記事で埋まっています」。

第四位は、「集団女性暴行事件など米兵事件相次ぎ、深夜外出禁止令も効果なし」

さつそく嘉数の高台に登って普天間を見下ろしました。目当てのオスプレイは駐機場に五機並んでいました。(写真)

琉球新報社に行つて一週間分



まとめていただいできました。目につく記事は騒音です。米軍補助飛行場のある伊江島では、一か月で八十デシベル(地下鉄車内)以上が七五回、百デシベル(電車が通るときの踏み切り)をこえるときも。

飛行実態は、日米合意違反は連日、学校や病院を含む人口密集地上空での飛行を例にとると、二か月で三百回をこえている。

「合意など無視している」米軍「抗議などするつもりもない」日本政府。

・本土の新聞との温度差は沖繩の抑止力報道でも

森本防衛相が退任直前に語つた内容について、本土の新聞は

さらつと小さく扱いましたが、沖繩では三段抜きの見出しで報道されました。(以下に要約)

辺野古沖に移設する現行案は軍事的、地政学的でなく、政治的要因で決めた。(海兵隊が沖繩に駐留するのは沖繩の位置にあると政府はいつてきました)が、それを覆しました)軍事的な観点からは、県内移設に固執する必要はない。

・女性暴行事件に対処する日本政府について

琉球新報は、社説「政府は恥ずかしくないか」を掲載しました。韓米地位協定が改定されて韓国駐留の米軍人・軍属・家族の犯罪容疑者について、十二種の犯罪では起訴前に身柄を韓国に引き渡せるようにしたので(日米間では、殺人と強姦のみ)。(日米間では、殺人と強姦のみ)。誘拐、放火、強盗、薬物取引やこれらの未遂犯も、飲酒運転による死亡事故も含まれていません。

「主権国家とはいかにあるべきか、あらためて隣国に教えられ

た。・・・屈辱的な治外法権は許さないという韓国側の強い意思がうかがわれる：韓国の主権国家としての自負心を見習うべきだ」

・県民すべての願いは

地位協定の改定

一九九五年の少女暴行事件のときは八万五千人の大集会で、地位協定の見直しを決議して政府に交渉をはじめよう要求しましたが、日本政府は拒否しました。基本的人権を守ることより米軍の横暴を優先しました。

・辺野古の海岸に立つて

海岸沿いに海面から10mの高さの滑走路が二五〇〇mもつづくことを想像してみました。ガイドは十トンダンブ二五六万台分の土砂を注ぎ込むことになり、と説明しました。岸辺に張られた闘う住民のテントには、座り込み三二七五目と書かれた立て看板が基地を睨んでいます。この間杭一本も打たせないうできた闘いにこちらが励まされました。

・オスプレイの発着訓練場 座り込みの方々を激励に

沖繩本島の北部には米軍の広大な訓練場があります。森林地帯です。このなかに点々と六つの発着場（ヘリパッド）をつくらうとしています。ヘリパッドのために直径七五mもの森林を壊しはじめています。

オスプレイの轟音には高江村民も度肝をぬかれ、人も家畜も生存権を奪われると村あげて闘いに立ちあがりました。

二〇〇七年から基地ゲート近くで座り込みをはじめました。

このときから村人が政府に説明を求めても、まともな回答は一切なかったとのこと。オスプレイが来ることは十年も前から分かっているのに、隠し続けてきました。この闘いについては本土の新聞はほとんど何も報道しませんでした。この間に村民が逮捕されるなど弾圧が熾烈で、裁判闘争も行なわれています。オスプレイは配備間近になって県民や国民に「伝え」、ただ「従

え」といつていることがよく分かりました

・基地の外に住む米兵たち

北谷町（嘉手納基地の南側）には三千人以上の軍人・軍属・家族が住んでいます。その砂辺地区を歩いてみました。写真をご覧下さい。住民登録をする義務はなく、住民税も払わない。彼らの出すごみ・し尿処理費は町民の負担、自動車税も大幅に軽減され、水も電気も：付近に見える立派なマンションには将校クラスが月二十万円以上も手当てをもらって入っています。



あちこちに更地があります。騒音にたまらず出て行った日本人住居跡です。町内会には入らないので、防災計画にも支障をきたしている状況です。夜間外出禁止にしてもここでは意味がないですね。幽霊人口を十二%も抱え苦悩する北谷町でした。

・沖繩本島の北端は辺戸岬

岬の北約二五キロに与論島が見えます。海上が二七度線です。本土復帰前の「国境」でした。岬の先端に「祖国復帰闘争碑」が聳え立っています。碑文を紹介します（前半略）

＊

全国のそして全世界の友人へ贈る・・・

一九七二年五月一日 沖繩の祖国復帰は実現した。しかし県民の平和への願いは叶えられず 日米国家権力の恣意のまま軍事強化に逆用された。しかるが故に この碑は 喜びを表明するためにあるのではなく、ましてや勝利を記念するためにあるのでもない 闘いをふり返り

大衆が信じ合い 自らの力を確かめ合い決意を新たにし合ったためにこそあり 人類の永遠に生存し 生きとし生けるものが自然の摂理の下に 生きながらえ得るために警鐘をならさんとしてある

＊

昨年は復帰四十年、琉球新報はある日の社説の結びをこのように書きました。

「日米は、人間としての尊厳をかけた県民の行動は非暴力ではあっても決して無抵抗ではないことを知るべきだ」


九条は市民一人ひとりが全力で使ってはじめて力を発揮するもの。さらに

名古屋高裁の判決は、平和的生存権は、市民一人ひとりが使える「具体的権利」だと明言しました（二〇〇八年）

四十年前に県民が世界に贈った檄文を引き継いで、私たちが平和をつくっていくために力を尽くすことが今求められているのではないのでしょうか。

お知らせ

◎東久留米「九条の会」学習会
 「憲法改定で安倍内閣のねらうものは？」
 講師：山口真美 弁護士
 3月30日（土）午後7時から
 中央町地区センター2階第3、4会議室
 参加費 200円

東久留米「九条の会」学習会
**憲法 96 条改定で
 安倍内閣のねらうものは？**
 お話し：山口 真美（やまぐち なおみ） 弁護士 
3月30日（土）午後7時
 中央町地区センター2階第3、4会議室
 参加費：200円

●日本弁護士連合会（JF）所属
 2003年10月15日弁護士登録。東京国立大学の
 三多法律事務所にて所属。現在、自由
 法務院の理事副院長兼事務局長、
 行政法クリニック、行政法研究会の理事
 事務局長の「ならくり」（学習の友）、「フ
 ォワード」（新聞欄）、「国会改革を止め
 るアナムのめろ」（学習の友）あり。

日本国憲法第96条
 この憲法の改正は、先議の議員の三分の二以上の賛成で、国会がこれを通過し、国会に提案してその承認を求め
 らねばならない。この承認は、特別国会投票又は国会の定めた選挙の期に行はれる程において、その選挙の期定を必要
 とする。憲法改正について前回の承認を経たときは、天皇は、国民の名で、この憲法を一体改定するものとして、直ちにこれ
 を公布する。

主催：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel：473-9489（鈴木） メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

◎キリスト者九条の会 特別講演会
 「原発もいらない 戦争もいらない！」
 （今、私たちが考えること）
 講師：鈴木伶子さん
 4月29日（月・休）午後2時
 会場：成美教育文化会館3F大研修室
 会費：300円
 お問い合わせ：042-473-4496（アコルデ）



◎東久留米「九条の会」8周年のつどい
松元ヒロ ソロライブ
 バイオリンとビオラ二重奏
 5月25日（土）14:00 開演（開場 13:30）
まろにえホール（東久留米市立生涯学習センター）
 一般 前売 1500円（当日 1800円）
 中・高・大学生・障がい者 前売 1000円（当日 1300円）
 予約・お問い合わせ：042-473-9489（鈴木）
 メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp
 チケット取扱
 東久留米各地域九条の会
 東久留米市市民プラザ・東部、南部、西部地域セ
 ンター・喫茶バオバブ・證文堂滝山店・喫茶アコ
 ルデ・蕎麦庵陶然・珈琲焙煎工房ロアン

東久留米「九条の会」
 8周年のつどい

松元ヒロ vs.1
ソロライブ

「コント」「パントマイム」のお笑いライブ
 一度見ればあなたも虜に！
 抱腹絶倒のヒロワールドへようこそ！

オープニング
 バイオリンとビオラ二重奏

 **濱田協子 (vn)**
 国立音楽大学卒業。室内
 楽、オーケストラ等専攻。
 活動中を行っている。

 **神田幸彦 (va)**
 東立音楽大学卒業。元々、
 学生時代に活動。今は、
 室内楽、オーケストラ等
 活動中している。

2013年 5月25日（土）
 14:00 開演（開場 13:30）
まろにえホール
 東久留米市立生涯学習センター・ホール

チケット 前売 1500円（当日 1800円）
 中・高・大学生・障がい者 1000円（当日 1300円） 小学生以下無料
 取り扱いは：東久留米各地域九条の会、東久留米市市民プラザ・各地域センター
 郵便：〒473-9489 成美教育文化会館3F大研修室 電話：042-473-4496

主催：東久留米「九条の会」 予約・お問い合わせ：042-473-9489（鈴木）
 ホームページ：http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/

「マイム」と「トーク」による社会風刺の
 表現と、時の政治事件の諷刺の「人物」
 や「もの」に引ききっての「一人コント」
 を観る楽しみをさせた「メロドラマ」ア
 メディー。
 自らも日本演劇協会に所属する一芸家
 「松元ヒロ」では、「九条の会」8周年は
 まだまだ現役。だから、どうおもと品
 分（絶賛）を掲げて欲しい」と訴える。

◆ 私のおすすめの一冊 ◆

沖縄とヤマト 「緑の糸をつなぎ直すために」 小森陽一編著 かもがわ出版(本体1800円+税)
 「九条の会」事務局長の小森陽一氏と、新崎盛暉氏、井波洋一氏、石川真生氏、我部政
 明氏の四氏との対話から、返還40年たってもなお途切れている「緑の糸」をつなぎ直す
 にはどうすればいいかを探る。石川氏の写真は印象的である。(T・O)

騙されたあなたにも責任がある 脱原発の真実 小出裕章著 幻冬舎(本体952円+税)
 この国に、もはや安全な食べ物はない。原発即時全停止しても電力不足にはならない。3・
 11から1年、次なる放射能拡散の危機が迫る。政府・保安院・東電の隠された大罪を信
 念の科学者が告発。(S・O)